

トーキングロード
嘶家人生 山あり、谷あり

〔第66回〕

上方のレジェンド

✦ 文 林家希林

text by Kirin Hayashiya ✦

上野にあります鈴木本演芸場で落語協会100周年記念が行われ、上方落語協会の桂文枝師匠が10日間トリをつとめられておりました。

桂文枝師匠といえば、三枝時代からの『新婚さんいらつしゃい』など数多くの人気番組をやられて、落語の世界では新作落語を星の数ほど創作している落語界のレジェンド。そんなレジェンドが、普段は東京の寄席には出ないのですが100周年記念でご出演。チケットは毎日完売ですさまじい爆笑高座をされていました。

文枝師匠とは僕が前座のころからお世話になっており、師匠の作られた新作落語も何本も頂いており感謝してもしきれない師匠の一人。

師匠の私服はいつもビシッとしており、その雰囲気はイギリスの貴族を思わせ、楽屋での微笑は絵画にしたくなるような感じで高座と同じように全てが芸術的。僕にも気さくにお話をしてくださりいろんなことを教えてくれ、親近感も兼ね備えている方です。

落語に向き合う姿はいつも真剣そのもので、爪の垢を煎じて飲ませて欲しいほどの優しい雰囲気と気迫をまとっているという。

是非皆様も一度はご覧いただきたい師匠の一人です。

誰の言葉だったか忘れましたが（失礼）、

「古典は長く愛された新作」という言葉、これとっても好きです。

どんな古典落語も誰か最初に演った人がいるわけで、その時は確かに新作落語でした。

そのいくつかは落語の祖、安楽庵策伝というお坊さんが法話の代わりに話したのが元になったとか（諸説あり）。

落語の中興の祖といわれた三遊亭圓朝作の『芝浜』や『牡丹燈籠』はまさに演じられているし、『死神』や『名人長二』はなんと海外文学を元に作られたのだとか。

上方だと、4代目の桂米團治師匠が自身の経験から作った『代書』、東京でも『代書屋』で今でも親しまれています。

僕ですか？僕も新作いくつも作りましたよ。

それが古典になるかは、数十年後のお楽しみに！

netkeiba プレゼンツ 林家希林とメシ馬の
「馬並みな話ではございますが」

毎週土曜日 18:30 より放送中!

インターエフエム [89.7MHz TOKYO]

<https://www.interfm.co.jp/umanami>

林家希林とかしめ・洋平の今夜は話さナイト

出演 林家希林、立川かしめ、大西洋平

毎週土曜日 24:30 ~ 25:00

K-mix (静岡 FM) で好評放送中!

radiko プレミアムにご登録いただくと生放送にてお聴きいただけます。静岡エリアの方は radiko にて一週間タイムフリーでいつでも!

profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。

2009年林家木久扇に入門

2013年二ツ目昇進。

2023年9月下旬より真打昇進。林家木りんから「希林」に改名。身長192cmと、落語協会一の高身長!

趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。

空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。

初の著書『師匠!』発売中

